

## マレーシア・クアラルンプール 及びシンガポールでの石川フェアの開催

### 1. 第5回石川フェア@伊勢丹 KLCC の開催について

マレーシアの首都クアラルンプールにある伊勢丹 KLCC にて、毎年恒例となっている石川フェアが開催されました。5回目となる今フェアには、県内事業者7社が参加し、6月21日からの約1週間、現地での店頭販売を行いました。本フェア開催にあたり、例年を上回る規模での開催を目指して計画段階から伊勢丹サイドと打合せを重ねてきました。その結果、商品ラインナップを充実させるとともに、現地の観光事業者を巻き込んだプロモーションを実施することができ、関係者が一丸となって本フェアを盛り上げることができました。

具体的に話しますと今回、石川県から逸味潮屋、笠井食品、金沢豆富、ジャパンファーム、高澤醸造、佃食品、中田屋(五十音順)が来馬され、主力商品をプロモーションするとともに、現地の嗜好にあわせた、国内とは違った売り方をするなど、各社工夫を凝らして売上アップを目指しました。特に日本の加工食品は味付けや食べ方などが完成されているため、如何に工夫してローカルの食文化に寄せていくか、彼らの購買意欲に火をつけるかが重要となります。参加された県内事業者におかれては、こうした一般消費者と直に触れ合える機会を利用し、どんどん市場ニーズを吸い上げ、地域にあわせたマーケティングに取り組んで貰いたいと思っています。

一方で海外の物産展では商品を販売する事にとどまらず、来場者に「石川県 ISHIKAWA Prefecture」を認識して貰うことも非常に重要と考えています。来場者は少なからず「ISHIKAWA」に興味をもち来場しているため、この絶好のタイミングを見逃さずに現地ローカルに石川県を印象付ける事が大切であることから今回から現地の観光事業者と連携して、石川県への観光誘客に繋げるプロモーションも実施しました。この取り組みには JNTO 様、JR 西日本様及び H・I・S 様から全面的なご協力をいただき、Facebook 等にてフォロワー約40万人超に対し、本フェアの情報発信を行うとともに、県産品購入者には JR パス(行き先に石川県を含む)の割引券を約1,000枚配付しました。

官民一体となり取り組んだ本フェアが、どのくらいのローカルの方々に響いたのかは現時点では分かりませんが、東南アジアで石川県をプロモーションする県内企業及び現地の協力者は着実に増えてきています。石川県が単独で実施するのではなく、こうした素晴らしいチームで、引き続き、石川県の魅力を東南アジア全域に発信し続けていけたらと考えています。



石川フェアの様子



マレーシア KL 石川県応援団  
(県人会のメンバーと)

## 2. TEPPEIグループでの石川フェアの開催について

石川県プロモーション応援隊(私が勝手に命名笑)は、シンガポールでも着実に広がりを見せ、山下哲平氏がオーナーをつとめ、当地で最も成功している日本食レストラングループ「TEPPEI」でも今年7月に約1ヶ月間石川フェアを開催しました。同グループは、シンガポールやタイの高島屋内でレストランを運営しているほか、独立店舗の和食レストランや鰻専門店を運営し、毎日長蛇の列が出来るほどの人気店となっています。

本県が誇る質の高い生鮮品や加工食品、九谷焼の小皿等をふんだんに使用した石川フェアは、お客様からの評価も上々のようで、一部の加工食品ではフェア期間中に追加注文が入るなど、協力いただいた県内食品企業からも喜びの声をいただいています。

こうした中、個人的に最も嬉しかったのが TEPPEIグループのローカル従業員の方から「石川県に行ってみたい」、「石川県最高！」という声を聞けたことです。現地のビジネス関係者に石川県を好きになって貰うこと、気に入って貰うこと、特別扱いして貰うことは県産品の販路開拓はもちろん、誘客促進にも直結します。こうした良好な関係を続けるためには利害関係者全員が win-win の状態にあることが大前提なので、県としても彼らの本業に少しでもメリットが出る提案・調整を行い、最終的には県内事業者の利益に繋がるよう取り組んでいきたいと考えています。



石川フェアのオリジナルポスター





石川の食材を使った料理の数々

### 3. タイ AEC ビジネス促進部会の開催

KLでの石川フェアと時期を同じくして、タイ・バンコクでは(一社)石川県鉄工機電協会が運営する「タイ AEC ビジネス促進部会」が開催され、現地法人が抱える悩み事について会員企業同士で議論しました。企業の枠を超えたチーム石川がタイでも出来上がっています。

様々な分野で「石川県」というキーワードのもと、各関係者が協力し合ってビジネスに取り組む姿を多く見る事ができ、非常に嬉しく感じた1ヶ月間でした。今後とも石川県シンガポール事務所は、各事業者を繋げる接着剤の役割ができるよう、引き続き、気を引き締めて頑張っていきたいと考えています。